

2022/7/1

(It's a English. Our side language English II I have a question. May I ask you? 質問ばあ、ありよるバッテンがさい。訊いてえん、よかと?) 書庫版



How many is the number of all members?

(メンバーは全部で何人なの?)

今日たまたま偶然にそんな質問をして「んっ?」と行ってしまいました。

「んっ?」の理由は

Number

と

Member

Ber は同じで Num と Men が違うだけ。

そういえば今使っているパソコンのキーボードの Num lock は「文字キーを数字キーとして使用する」に固定の意味。

だから number は数に関わっているのだろう。

それでは member は?

Men が付いているのだから男に関わる事?

再び「そういえば」の話、英語の元になったといわれているらしい古代ケルト語では men(man)は男ではなく人を表していたという記事をだいぶ前に読んだ記憶があったので、それが正しいとすれば men は人。

で、number of member は「人の数」という事になる訳？

それでは ber は何かと言えば、前後から推測するに、例えば「レベル」の意味合いなのかも。だとすれば正確には

「全部の人の数のレベルはどのくらいなの？」

という事？

話は変わって昨日の記事に出てきた

I'm very hungry!!

の hungry もこの伝で行けば overhang の hang「ぶら下がる」の過去分詞（形容詞形）で hung つまり「ぶら下げられて」いる"ry"「状態のもの」と言えそうです。

意識すれば「胃袋が空っぽで、胃袋の存在が体の中で殊更に吊るされている（ぶら下げられている）ように感じられる」状態とか、或いは「空きっ腹で仕方がない時に、目の前に食い物をぶら下げられてお腹がグーグーなっている」感じだとか。

話を本題に戻しましょう。

即ち「何が言いたいのか？」です。

申し上げたいのは、これも前回の記事の中の一つですが「言葉に印象や感想を持つと覚えやすく、また引き出し易くなる」という事の例として書いてみました。

もっと言うと「なぜこの言葉はこういうのか？」是も昨日の記事の中の 5+1W1H の話の中の why（なんでやあねん）？を一例として実行してみたという訳です。

こうなってくると外国人に逆質問を試みるのも一興かもしれません。

是も是又、昨日の記事の中の「殺生与奪の権（話の主導権を自分の側に取戻す）の取戻し」に絡んで英語が専売特許の外国人から専売特許じゃない自分の側に引き戻す効果がありそうなこともあって、例えば

"Number" and "Member" is almost the same. Num and Mem is different only.

The source of these words the same? From same source? What`s the source? If you know it (=have knowledges), open source to me please.

Don`t mind, don`t mind, no problem. Hey let`s go, go, let`s (ra) go!! Further and further, so on and so on mood, Seems to, maybe.

（ナンバーとメンバーってほとんど同じでえ、ごあんどお。ナンとメンが違うだけっちゃろうが。語源が一緒なんかい？同じ語源？その語源てえ、なんかあ、ごわす？知っちゃったら、オープンソースばあ、してえたもんせえ。

苦るしゅうない、苦しゅうなかあ。ドンガラがったドントどんと行きましよう、ぐうわんどおな、感じだけやけん、がさい)

It might be a cause of his(her)panic

(結構相手は焦りまくるかもしれません)

Got a win!!(or done it!!) (inside true voice, secretly)

(やったあ〜!! (内心の密やかなる本音)

死語表現では やったぜ、ベイビー!!

てな、感じでしょうか?)